【学校だより】

かがやくこころ2

令和3年　12月　2日（木）第16号

人権週間に思うこと

雲浜小学校では今月２日から人権週間に入りました。一人一人が居心地の良い学級、学校になるにはどうしたらいいのかを今一度考える期間になります。

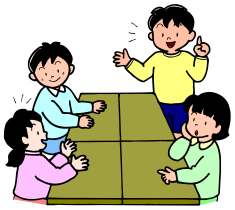
クラスを巡回していますと「良いところシャワー」なる、友達の良いところを一人一人話している場面に遭遇します。しかも具体的に…。クラスの中はいろいろな性格や特性を持った子ども達ばかりです。その一人一人の良いところに目を向けることは、とても意義があると思うのです。

人はだれしも良いところと悪いところがあります。私だってそうです。自分で自覚している欠点もありますし、自分では気が付かない悪いところもあるでしょう。人の悪いところを指摘して自分を優位に立たせようと思うことは多々あります。他人を貶めて自分が優位に立って認められたいと思うからなのでしょうね。

しかしそれを実際に行ってしまうと人と対立が起きてしまい、人を傷つけてしまうことになるのです。

これからの時代は一人の人間の価値観で正解が決まる時代ではありません。多くの考え方の違う人と議論し、相談しながら最適解(最もみんなが納得できる答え)を導き出していく力が必要になってくるようです。

さて、私たち教員は子ども達にそうした心や力を身につけているでしょうか。教員の話をじっと聞かせ、一つの答えを求めるだけの一方通行的な授業をしていたのでは、これからの社会を生きていく子ども達の心や力も育てることは出来ないのです。



大切なことは、「一人一人はかけがえのない存在であり、どの子も大切なんだ」という意識をクラスの中で育めているかどうかです。発言力のある子や身体能力のある子ばかりが優遇されるのでは、決してそうした互いに尊重できる土壌を育むことは出来ません。一人一人の良さを「見える化」してあげる学級の取組が必要になってくるのです。

そうした土壌がクラスで育めていたら、あとは「みんなで協力して自分たちなりの答えを導き出す」練習をクラスで行っていくことです。そこで大切なことは教師がすぐに答えが見つかるような課題を子ども達に提示していないか、ということです。「〇〇は何ですか？」と聞くのではなく「〇〇なのはなぜだろう？」「〇〇についてどう思う？」「〇〇さんの意見についてみんなはどう思うかな？」のような間口の広い返しで子ども達の思考力を育む工夫が必要になります。

学校は子ども達に知識を教える場だけでなく、将来子ども達が社会の中で生き抜くための力を育てる場所だと考えます。そこで必要なのは上述したように「価値観の異なる人と、ともに意見を出し合い協力して(協働とも言います)よりよい解を見つけること」になります。従ってそうした一人一人を認めることのできる心を育んでおくことが何より大切だと思うのです。

「良いところシャワー」は何気ないクラスの取組のようですが、これから求められるだろう心の育成には大切な一つだと考えています。

また、「発言者の方を向いて話を聞く」ことや「〇〇さんの意見につけ加えて…」「〇〇さんとは少し違って…」「〇〇さんの言いたいことは、たぶん…」といった友達の発言や意見をしっかりと受けて答えるシーンも目にします。きっと前に発言した子は「自分のこと、みんなに聞いてもらえているな」「自分は支えられているな」といった嬉しい気持ちになるのではないでしょうか。

わたしたち教員は、雲浜小の子ども達に授業を通して、将来に役立つ力や心を身につけさせたいという思いで、今後も日々子どもたちと接していかなくてはいけないと思っています。